日英混交発話分析について

教育デザインコース　日本語教育領域
安田　佳実

1．はじめに（目的）

筆者には、インターナショナルスクール（以下、インター）に通ういとこがいる。彼らは言語能力が劣っているわけではないが、家族と日本語と英語の混交で会話している。このことから筆者は混交言語が 1 つの言語として成立しているのではないか、そうであれば、この混交言語はどのような機能をもち、コミュニケーションを成立させているのだろうかと考えた。

インターに通う学生の多くはバイリンガルである。そのバイリンガルの言語能力としてあげられるのがコードスイッチング (以下、CS) である。CS とは、バイリンガルが文内と文間において言語を交替させることである（Mahootain 2006)。例えば、「私は dogs が好き」のようなものである。吉田 (2014a:2014b) は、この CS について、モノリンガルとバイリンガルの容認度に違いがあることを指摘している。バイリンガルは英語文内で日本語が現れる場合に CS を容認するということであった。しかし、ここで使用されていた CS の例は、吉田が Mahootain(2006) を基にして作成したものであり、実際に使用されている CS について容認度を測定したわけではない。また、田崎 (2007) は、CS 語 (CS を含む言語) が共生言語 (違う母語話者同士が意思疎通のために使用する言語) として使用する意義があるのかを研究し、違う母語話者同士で使用する CS 語がコミュニケーション成立のために共生言語として役割をもつ意義があると指摘している。しかし、「はじめに」で述べたように、共生目的ではない CS 語使用もあることから、複数の言語を操る同じ母語話者同士で使用する CS 語の意義も考える必要があるのではないだろうか。

そこで、本研究では、日英バイリンガルの使用する CS 語の特徴と機能を明らかにする。

2. 研究課題と研究方法

課題 1) 文のどこで交替が起きるのか。課題 2) どの品詞で交替が起きているのか。課題 3) 両言語のどちらの文法を規範にして交替しているのか。課題 4) 談話の中で交替がどのような役割を果たしているのか。インター生 3 名の音声を録音、文字化し、統語および機能的に分析した。

3. 結果

統語的分析では、CS する品詞は名詞が一番多く、その中でも固有名詞が多く見られた。次に談話標識が多く見られた。また CS が多くなると、音象徴語は日本語であることと、文法は 2 言語を使い分け、規範にしていた。機能的分析では、話者交代部分で CS が起きていた。

4. 考察

統語的分析結果からは、固有名詞は対訳があっても、その固有名詞の発生言語を使用していた。また音象徴語は日本語だったことからも、各言語の特徴的なところで CS する傾向が見られた。

機能的分析結果からは、CS が起きる普遍性は明らかにならなかったものの、英語での主張を曖昧に言い直す時は日本語で行うという特徴が見られた。各言語の持つ特性を話者が無意識あるいは意識的に捉え、使い分けていることが考えられた。

5. 今後の課題

新たにデータを収集し、特に CS の機能ついて綿密な分析を行う予定である。